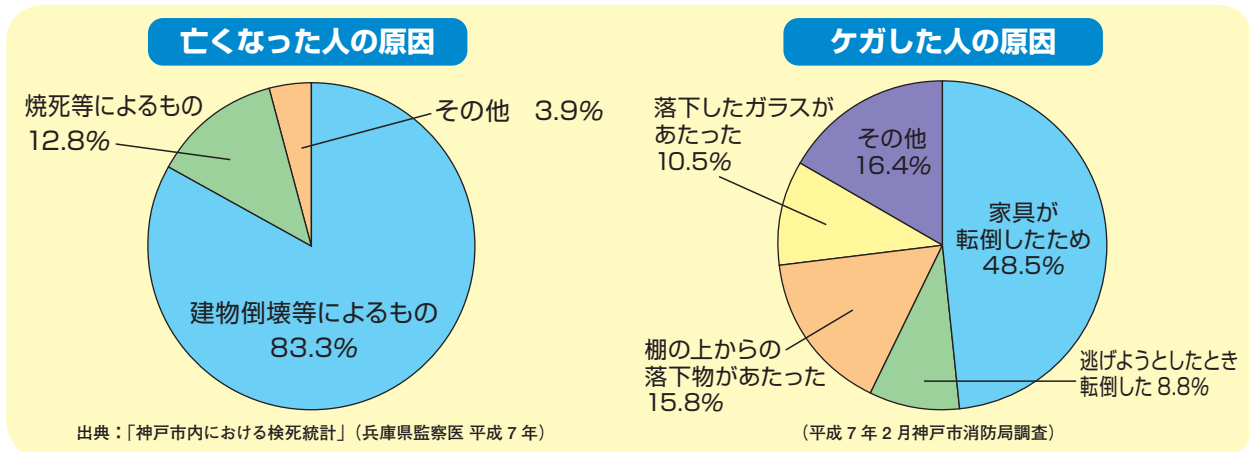


### 1 建物の耐震化と家具等の転倒防止の重要性

死者6,400人余、負傷者約43,800人の大惨事となった阪神・淡路大震災。亡くなった方の80%以上は建物の倒壊等によるもので、ケガをした方の半数近くは家具の転倒によるものでした。



#### わが家での安全な暮らしのために

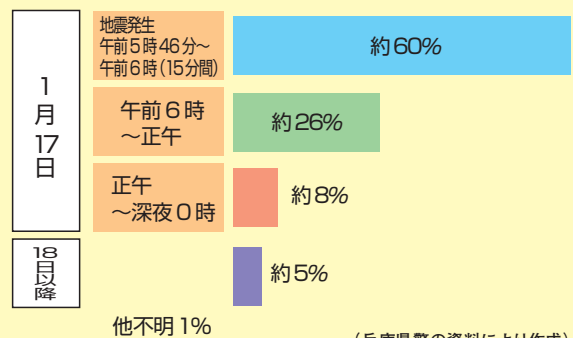
- 昭和56年5月以前の木造住宅にお住まいの方は、市役所建築住宅課に相談を無料の耐震診断や補助金の制度があります。(15ページ参照)
- 家具等の転倒防止をしよう(16ページ参照)  
個人で出来ない場合、業者に依頼することができます。  
その時は、まず市役所危機管理課に相談してください。

### 2 被害者をただちに助けることの重要性

阪神・淡路大震災では、死者のうち発生から15分間で約60%の方が、また、約6時間で約86%の方が亡くなっています。

いざという時のために、地域の防災訓練等に積極的に参加して、救出・救助や救急救命法を体得しておきましょう。

#### 死亡時間別死者数(阪神・淡路大震災の死者の分析)



### 3 自主防災活動の重要性

被害者をただちに助けることが大切にもかかわらず、大震災の際は、行政による救援がすぐには期待できません。実際、阪神・淡路大震災で被害者の救出・救助に当たったのは、80%近くが近所や家族の方でした。

自主防災活動に積極的に参加して、災害に強い地域づくりを進めましょう。(28ページ参照)

#### 阪神・淡路大震災で救出・救助に当たったのは

